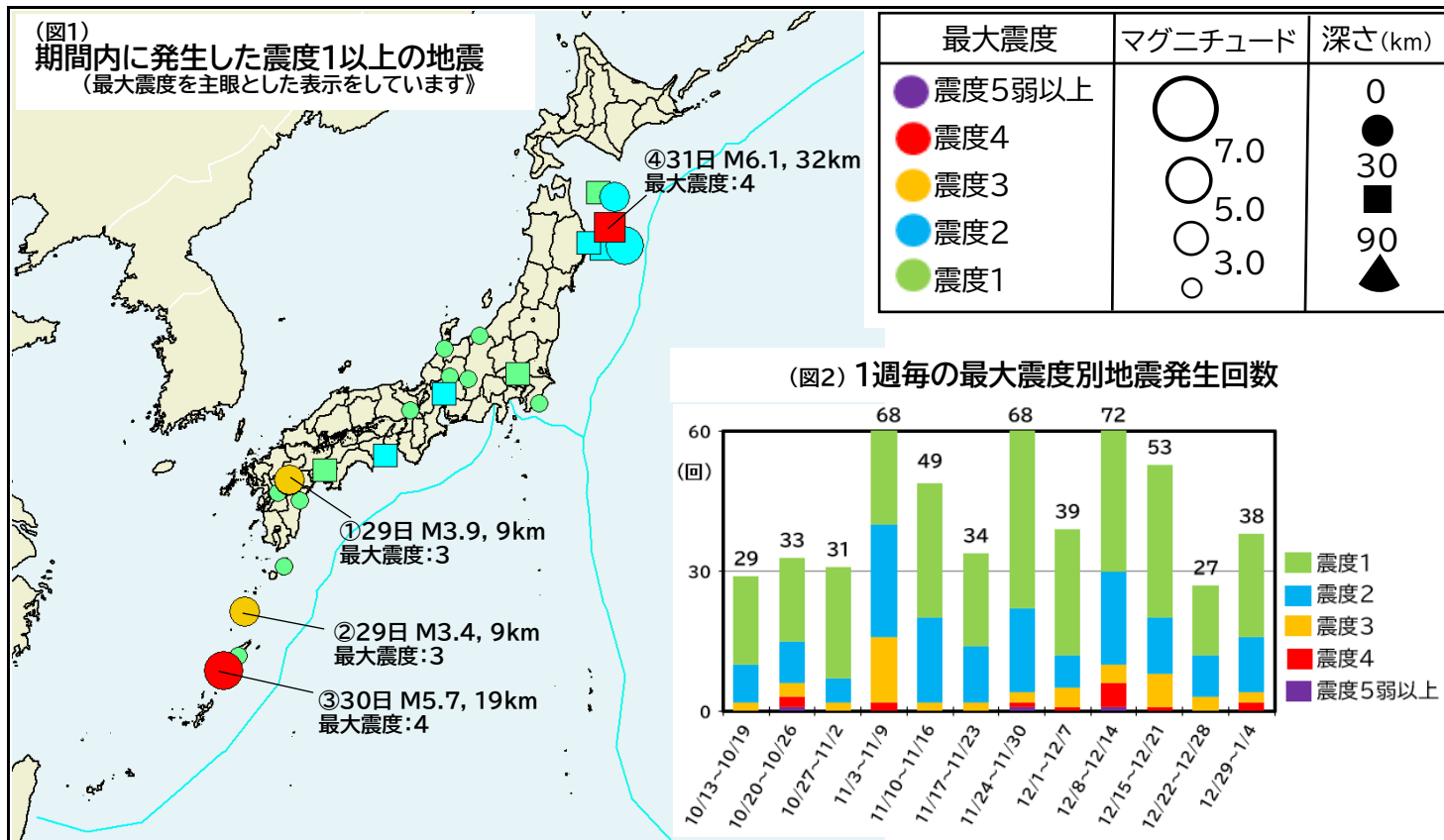


この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

■ この期間、震度1以上の地震が38回発生。最大震度は4。 ■

- ①12月29日07時35分に熊本県阿蘇地方で発生した地震(M3.9、深さ9km)により、熊本県阿蘇市・産山村・南阿蘇村で震度3を観測したほか、九州地方で震度2～1を観測。
- ②12月29日07時51分にトカラ列島近海で発生した地震(M3.4、深さ9km)により、鹿児島県十島村悪石島で震度3を観測(震度1以上を観測したのは悪石島のみ)。
- ③12月30日17時12分に奄美大島近海で発生した地震(M5.7、深さ19km)により、鹿児島県徳之島町・天城町・伊仙町で震度4を観測したほか、奄美群島から沖縄県にかけて震度3～1を観測。
- ④12月31日23時26分に岩手県沖で発生した地震(M6.1、深さ32km)により、岩手県盛岡市で震度4を観測したほか、北海道から関東地方にかけての広い範囲で震度3～1を観測。

トピックス

■ 2025年の地震活動 ■

・2025年1年間に震度1以上を観測した地震は、国内各地で発生しており、その総数は4,456回でした(図3、図4、表1)。図4に示した期間の1年間の平均値は2,985回、中央値では2,116回となり、震度1以上を観測する地震は毎年2,100回程度発生していると言えます。

・主な活動としては①6月下旬から活動が活発となったトカラ列島近海(悪石島近海)。②7月30日にカムチャツカ半島沖で発生したMw8.8の地震により、日本でも北海道から九州までの広い範囲で震度1以上の揺れを観測。③12月8日に青森県東方沖で発生したM7.5最大震度6強の地震。この地震に伴って北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された。

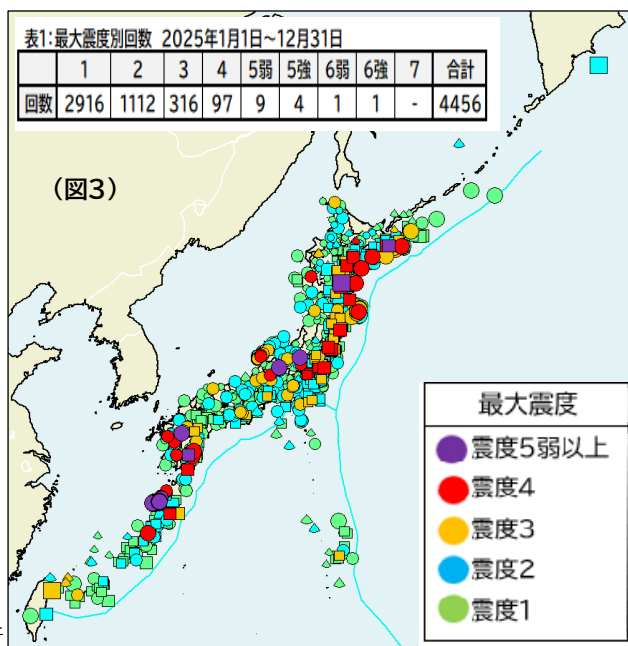
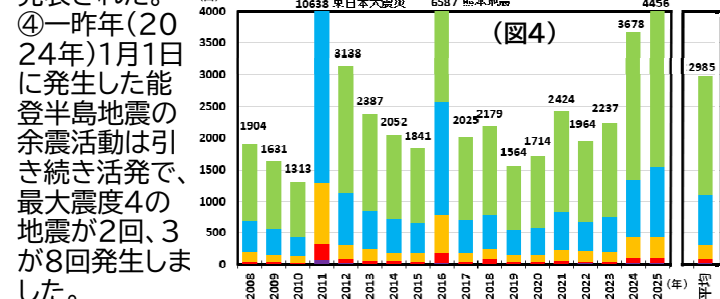
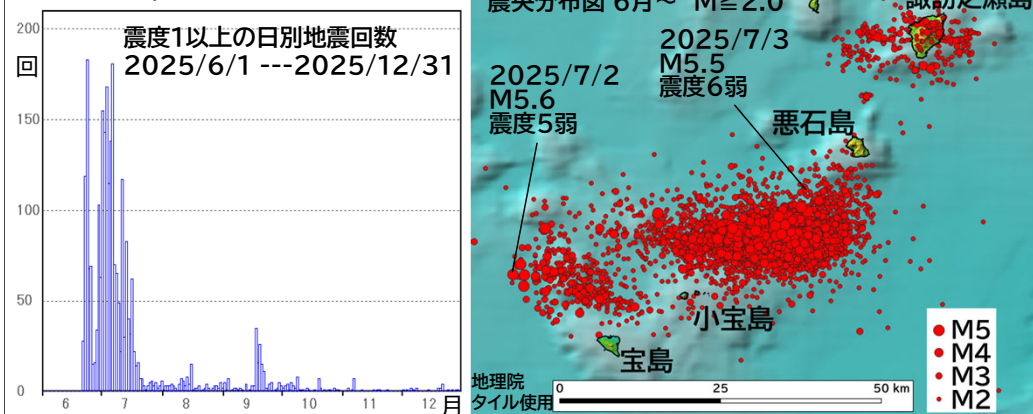


図3:昨年1年間に震度1以上を観測した地震の震央分布
図4:2008年から1年間に発生した地震の震度別回数及び総数
表1:昨年1年間に震度1以上を観測した地震の震度別回数

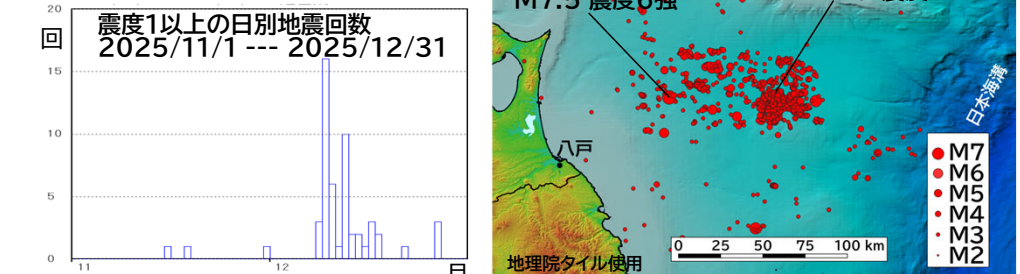
トカラ列島近海の地震 ～震度1以上の地震2,400回を超える～

- トカラ列島の悪石島から宝島にかけての海域では、6月下旬から地震活動が活発になった。大きく見ると東側と西側の領域に分かれている。
- 東側では7月3日にM5.5の地震が発生し悪石島で最大震度6弱を観測した。西側では7月2日に今回の一連の活動のうち最大規模の地震M5.6が発生し、小宝島で最大震度5弱を観測した。
- これらの海域の地震活動は減少傾向ながらも現在も活発な活動が継続しており総数2,400回を超えている。



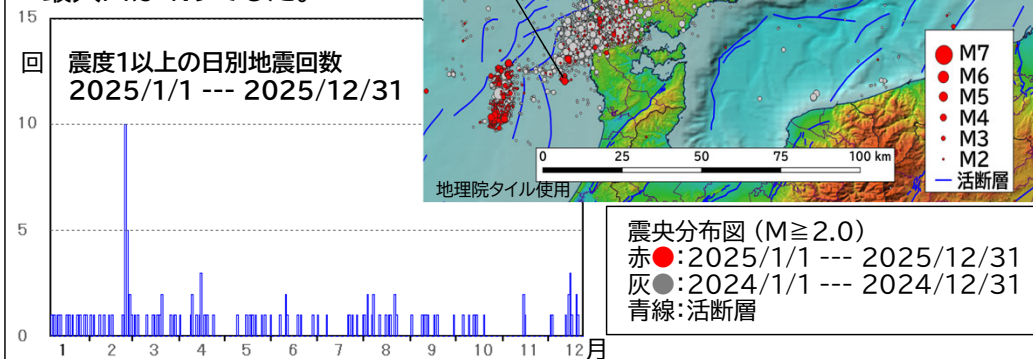
青森県東方沖の地震 ～初めての北海道・三陸沖後発地震注意情報～

- 12月8日に青森県東方沖で、M7.5深さ約54kmの地震が発生した。この地震により青森県八戸市で最大震度6強を観測し人的被害が生じた。津波も発生し岩手県久慈港で0.7mなど、北海道から福島県にかけての観測された。
- 12日には、8日の地震から東に約50kmの場所でM6.9深さ17kmの地震が発生するなど地震活動が一時的に活発になった。地震回数は減少してきているものの地震活動は継続している。
- この地震により、気象庁は12月9日02時00分に北海道・三陸沖後発地震注意情報を発表し、政府は防災対応をとるべき地域に対して、地震発生から1週間、「特別な備え」及び「日頃からの地震への備えの再確認」を実施するよう呼びかけた。



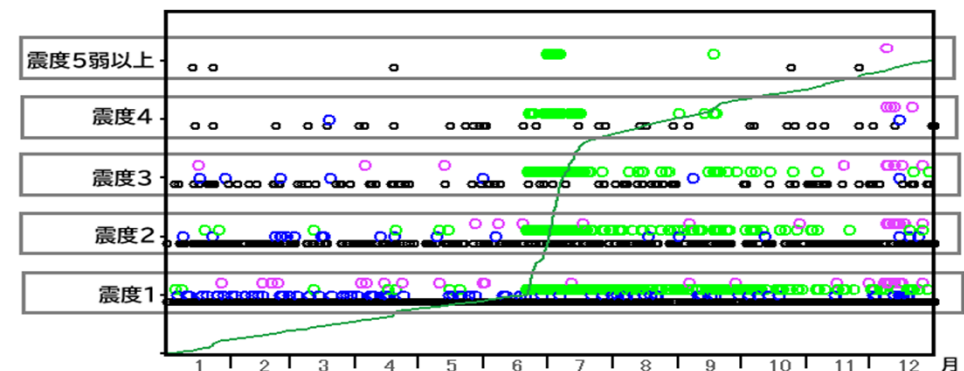
能登半島地震 ～減少傾向だが活発な活動継続～

- 回数は少なくなっているが、2024年の活動域全域で活発な活動が続いている。
- 活動域の西部での発生が多い。
- 2025年の最大震度は4で2回発生。震度3は8回発生。
- 最大Mは4.9でした。



全体 ～トカラ列島近海の地震が54%～

- 2025年1年間に震度1以上を観測した地震は4,456回を数えました。
- その内訳を主な活動別に見ると、トカラ列島近海(悪石島から宝島近海にかけて)54%、能登半島地震3%、青森県東方沖2%、その他が41%です。
- この数字からもトカラ列島近海の活発な活動が伺えます。



2025年の震度別・地域別の地震発生状況

○トカラ列島近海、○能登半島地震、○青森県東方沖、○その他